

日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上1-32-15
〒146 電話(03)3751-7181

平成8年7月1日
第14号

750年を迎えて開宗

法華宗陣門流宗務総長
牧野 琢成

リレー提言 ④



法華宗陣門流総本山本成寺山門（修復後）

平成十四年、我々日蓮聖人門下では開宗七五〇年を迎える。ますます混迷する現代社会の中で、我々は何をなすべきか。各門流様々な企画が進行中である。後世のためにも、門下総力を上げて今この時代に爪の跡を残し祖恩報謝に勤めよう。

様々な相違を乗り越えて

来る平成十四年は日蓮大聖人開宗七五〇年に相当することは、数年前より熟知し、それに対して、大聖人に御報恩の誠を捧げねばならぬと思考して居りましたし、この思いは門下連合会加盟の各宗御当局の方々も同じであると考えます。

しかし各宗夫々に、その創立・歴史・教義・規模等々に相違があり、その対応も又いろいろであると考えます。吾が陣門流におきましても、御報恩の意志はあってもその前に進むべきことが山積して居り、それをクリアしてから、と云う意味から一つずつ解決して行くべく、宗門自体を団結して行動させる様努力して居ります。

現在当面して居る問題は、明年に迫った、総本山本成寺開創七〇〇年を如何にしてその大要記念事業等を実施円成させるかに腐心して居ります。

数年前より開創七〇〇年奉讃会を組織し、門末寺院一体となつて、その基本となり推進の母体となる募金に、調査に、研究に、啓蒙にと活動して居ります。総本山開創の先師日印上人（吾が宗で日朗・日陣上人と共に三師と称する先師の一人）に対する御報恩は、大聖人に対する御報恩にも通ずると考え、根本道場とする総本山の整備充実に力を注いで居ります。

理事長就任御挨拶

日蓮聖人門下連合会理事長 永井祥文



不肖、今般門下連合会理事会の御推薦を得、理事長の重責を負うこととなりました。今後門下連合会の運営発展に微力を傾注いたす所存であります。

門下連合会は大聖人の御理想実現の為、祖廟を中心として門下各派及び教団、並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化する

ことを目的として組織されております。過去の輝かしい歴史は先年本会より刊行されました「日蓮聖人門下連合会30年の歩み」によって窺知することが出来ますが、先師の熱血溢れる御活動の軌跡は永く門下に記憶される事と存じます。

特に日蓮聖人七〇〇遠忌報恩記念



東京別院本妙寺



祖板岩海中調査（伊東靈跡別院蓮着寺）

事業は日蓮聖人劇、日蓮聖人展、オラトリオ日蓮聖人、日蓮聖人門下青年の船と、いずれも対外的な接点をもった意義深い事業であったと拝察致します。

このようなエネルギーが門下連合の下に奔出し、大きな成果を結実させた事実は、今日門下連合会を背負う私共にとりまして、大きな励みであり、誇りであり、立教開宗七五〇年を目前にし、改めて先師の御努力に思いをいたし、新たな門下連合の展開に向け、共に手をたずさえて進んでまいりたいと願います。

しかし開創七〇〇年関連事業を実施中に昨年の阪神大震災が起り、幸いにも吾が宗は関西地区に寺院が少ない為、その被害は他宗に較べ僅少ではありましたが、募金の勸募、被災寺院の援護等々、相当の影響を蒙りました。

時あたかも総本山の山門が果の文化財に指定され、今回の目玉であったその修復工事にいろいろと面倒な指示がありました。現在それ等も克服し、着々と完成に向って進んで居ります。

大勇猛心を以て 尽力精進して行くこと

自分の事のみを申し述べた如き感が致しますが、本宗の僧侶、檀信徒一同、大聖人に対する信仰心・御報

恩の心は強固でありますし、各寺院を単位とした布教・教化も人後におちるものではないと確信して居ります。



牧野琢成宗務総長

お願い

「門連だより」の継続発展のため各地のご協力を切にお願いします。本紙に対する感想要望など、ぜひお寄せ下さい。

「日蓮聖人門連だより」編集委員会一同

從地涌出

◆昔から「嘘（ウソ）つきは泥棒の始まり」などといわれてきた。しかし人間はウソつきの動物である。生き物の中で一番ウソつきのようである。かくいう小生も今までに多くのウソをついてきた。またたくさんのウソもつかれてきた。殊のほか日本人はその癖を持っているらしい。◆現在放映中のNHK朝の連続テレビ小説「ひまわり」の舞台である南田家もウソをつかないことを庭訓としているが、今さらと思うこともある。しかし、今こそウソをつかない人間作りをアツピルすることが急務なのかも知れない。◆麻原彰晃をはじめとする一部のオウム教の被告たち、高速増殖炉もんじゅ事件、HIV薬害エイズ訴訟、TBS「坂本ビデオ」問題、住専国会参考人答弁、どれをとっても最近の話題はウソで固めた話ばかりであり、ウソの上塗りには心痛むことばかりである。◆我が胸に手をあてて考えてみるに、稀薄な信心を強盛なものに、未信者を篤信者に、同信の信徒誘引にと、布教教化活動に従事する私どもは、決してその轍を踏んではいけない。◆俗には「嘘も方便」という言葉もある。方便とは、衆生を教え導く巧みな手段（手だて）であり、真実の教法に誘い入れるために仮に設けた教えであって、一般には目的のために利用する便宜の手段をいう。しかし決して望ましいことではないだろう。なぜならば、我らが高祖日蓮大聖人は「正直に方便を捨てて、但法華経を信じ、南無妙法蓮華経と唱うる人は、煩惱・業・苦の三道は法身・般若・解脱の三徳と転じ、三観三諦即一心に顕れ、其の人所住の処は常寂光土なり」とご指南されているではないか。今一度乞御拝読。

(丈)

日蓮聖人ご真蹟の護持を願う

立正大学教授 中尾 堯文

一、ご真蹟を護持する意義

日本の仏教史をひもとくと、伝道のために身を挺した数多くの名僧が、光り輝きながら姿を現す。その中で、ひととき高く日蓮聖人のお姿がある。

日蓮聖人について語る時、最も注目されるべきことの一つに、聖人みずから筆をとって認められた実に多様な書がある。万巻の書をひもといて、大部の書を著した僧侶は数多くいる。数多の経典を読んで訓点をつけ、注釈を施して後世に伝えた僧もまた多い。けれども、日蓮聖人のように、法華経を広めるための激しい伝道を続けながら、その折々に数多の書を著し、しかもその多くが今日に伝わっていることは、誠に瞳目すべき事実である。

日蓮聖人の法灯を継ぐ私たちが、常々「ご真蹟」と呼んで神聖視しているのは、これら聖人の直筆全体のことである。考えてみれば、私たちがいつも拝読している聖人のご文章は、本来はすべてご真蹟であったはずである。けれども七百年という長い年月のうちに、その一巻全部が災害で失われてしまったり、一部分が紛失してしまったりして、ずいぶん姿を消してしまったりした。このため、日蓮聖人の直筆の部分が確実に現存するものを、とくに「ご真蹟」と呼ぶことにしている。「ご真蹟」は、この他にもいろいろと呼び名があるが、日蓮聖人の場合はとくにこの名称を用いることにする。

幸いなことに、ご真蹟を現物や写真で拝読し続けるのが、私の日常の研究生活である。久遠の釈迦牟尼仏と現世の衆生を結びつけるのが「法華経」であるように、日蓮聖人と私たちを確実につなぐのをご真蹟であるから、「幸いなこと」とわざわざ枕詞を使う程の喜びがある。しかも、ご真蹟そのものに接した時は格別

で、日蓮聖人の息づかいまではつきりと聞こえてくるようである。ご真蹟が、長い歴史を通じて現代に相続されてきたのは、このような感激があればこそである。

ところが、親しくご真蹟に接する度に、深く心を痛めることがしばしばである。卷子本や軸装の形で伝来するご真蹟は、長い間の不適切な取り扱いと保存によって、憂慮すべき状態にあることが誠に多いからである。ご真蹟の大半には、歳月の経過と共に弱くなってしまった紙本を、大事に表装して後世に伝えようと努力した跡が見られるが、もう何百年も手を加えずにおいたために、限界が来てしまつてどうにもならない状態になっている。最近修理された数例を除いては、ほとんどがこのような状態で、修理も二の次三の次にされているのが現状であろう。ご真蹟を確実に後世に伝えることが、現在の私たちに課せられた最も大きい使命といつても過言ではなからう。

二、「[ご真蹟]の Care」

七百年以上の歳月を超えて伝わったご真蹟を、確実に後世に伝えるためには、解決すべき問題があまりにも多い。日本の風土は高温多湿であるから、紙に書かれた文書や典籍などの文化財は、虫害や水損によって想像以上の実害を引き起こす恐れがある。しかもこれらの害は急激なものではなく、どことなく忍び寄ってくるので、気がついた時には抜き差しならない状況に追い込まれているという有様である。

ご真蹟を確実に護持するために、広く寺院で行われてきた伝統的な方法は、毎年一度、湿度が低く乾燥した日を選んで、「虫干し」を実施することである。本堂や書院、庫裏など所定の場所に、ご真蹟をはじめとする寺宝を広げて清らかな風を通すと共に、寺宝に痛みや紛失したものが無いかどうかを確認する。寺宝を入

れた箱や長持も、きれいに掃除した上で陰干しして虫や水分を追い払ってしまふ。つい先年まで各本山で行われていたことであるが、今日では数カ寺の例外を除いては、なぜかほとんど行われなくなつてしまつた。布教のためにも、ぜひとも復活すべき行事である。

虫干しを行う時にも、ご宝物の取扱いは十分な注意を払うことが必要で、けつしてこれを不用意に扱ってはならない。とくに軸装本については、広げる時も納める時も、矢筈を用いて静かに作業を行うことが要求される。卷子本の取扱いも意外にむづかしく、これらを厳密に身につけようとするには、実際に手を取つて習うことが必要で、とても文章で述べつくせるものではない。博物館などで講習会がある時にはぜひとも参加して習熟すべきであるし、寺宝の修理を完了した場合には、その取扱い方や護持の仕方などを経師の方から詳しく教えてもらつべきである。日蓮宗でも、取扱い方についての講習会を、しばしば実施する方針が立てられているようである。

寺宝を虫干しする場合、強い風があると損傷の危険が生まれるので、襖や屏風などによつてほんの微風程度に調整し、太陽光線が直接に当たつて紫外線の影響を受けないよう注意する。また紐が切れたり表装が壊れたものは、傷がこれ以上進行しないように掲げることが中止すべきであろう。寺宝の現在にみる状態については、専門家の判断を十分に聞くべきで、自家の都合で悪条件を無視して公開を強行することは、厳に戒めなくてはならない。寺宝は一人一人のものではなく、日蓮聖人門下全ての法財であるからである。

この行事の中で十分に注意を払わなくてはならないことは、盗難や破損というような人為的な不祥事である。とくに見張りを立てるといふのは、その雰囲気から見て判断する必

要があるが、参詣の人々にご宝物の説明をしながら、会場全体の様子をしっかりと把握して、絶対に事故が起らないように仕なくてはならない。もし不祥事が起こつたら、取り返しのつかない状況になることは言うまでもない。

虫干しが終わると元の箱に仕舞うのであるが、この箱が不完全であれば保存に適切とはいえない。箱についてみれば、時代劇によく現れる「印籠」と同じ形の蓋をもつ、いわゆる「印籠箱」が最適で、材質は桐材が最良とされている。しかし、箱の造りが大切で、外気の影響を受けにくい頑丈な構造のものが要求され、これを軽視することは許されない。その箱を納める「長持」は、中のものを出入りする時に余裕があるように、内容物がゆつたりと入るような大型のものが望まれる。

箱や長持の中には、ホコリや虫の糞などがないように、きれいに掃除しておかなくてはならない。とくに虫については、ちよつと見ただけでは発見できないような、微小なものがある。殺虫剤が箱の角にコピリついていると、入れ替えの時に品種の異なる薬品が化学反応を起こして、その結晶が寺宝を汚して台なしにしてしまふ恐れがあるので、きれいに取り除いておく必要がある。

高温多湿の日本の気候条件は、ご真蹟をはじめとする紙に書かれた寺宝の護持に、決してよい影響を与えないものではない。にもかかわらず、これらの文化財が長い歴史を超えて命脈を保ち、今日まで立派に伝えられてきたのは、先人の並ならぬ努力があつたことである。今こそ、ご真蹟を護持するための方策を、伝統を踏まえながらしっかりと打ち立てなくてはならないのである。

三、ご真蹟の修理を考える

日蓮聖人門下の諸教団が、大きな使命感と豊かな財力をもつて、ご真蹟をはじめとする寺宝を修理したことは、三百年も昔の江戸時代初期のことである。ご宝物の奥書や紙背に記された修理についての記事(修理銘)には、十六世紀から十七世紀にかけての年号をよく見いだすことができ

る。このように驚くほど長期間にわたつて修理を加えないまま伝来したので、ご真蹟そのものも施された表装もずいぶん弱くなつていて、保存の限度にきているのが大半である。

日蓮聖人門下の諸寺院で、かつて広く行われていた寺宝の虫干し行事が、近年になってあまり見られなくなつたことを先に指摘した。その理由のひとつには、寺院での人手や経費の不足があるようであるが、ご真蹟をはじめとする多くの寺宝が見る目も痛ましいほど傷つてしまつたことも原因であろう。軸装のひもが切れてしまつてかけられなくなつたり、ひどいのは表装がはがれ本紙に亀裂が走つていたりする。残念なことであるが、こうなつたら一日も早くこれを修理しなくてはならない。

軸装にしても卷子本にしても、これを本格的に修理するには、高額の出費を覚悟する必要がある。しかし日蓮聖人の門下にとつて、ご真蹟は他にかげがえない聖物であるから、いわば国宝や重要文化財級の修理を立派に施さなくてはならない。にもかかわらずこれを安直に修理してしまつと、出来上がった時点でほとんどに立派に見えても、時間がたつにしたがつて経費節約の結果が歴然として現れる。日蓮宗務院では、ご真蹟の修理について「日本装潢(そうこう)師連盟」に所属する経師屋を紹介しているし、各地の公立博物館や自治体の文化財保護担当部署では、責任をもつて修理についての指導を行っているので、必ず相談した上で実施することが要請される。

せっかく修理したご宝物も、その後の扱いが間違つていると、かえつて害をもたらすことになる。莫大な費用をかけて修理した寺宝は、理にかなつた護持の仕方、大事に後世に伝えなくてはならないし、それは門下の僧侶としての大事な責務に外ならない。

日蓮聖人門下の諸教団は、あと数年で立教開宗七五十年を迎える。この意義深い年を記念して「ご真蹟の護持」を強く打ち出されることは、誠に時宜を得た快挙に外ならない。聖人門下の諸教団の枠を越え、協力して「ご真蹟の護持」の方策を立てるべきことを念願してやまない。



For Your Travelife

「立教開宗750年」

旅、こころ

パッケージツアーはもちろん、お客様のニーズにお応えしたオーダーメイドの旅まで、旅のことならなんでもそろっています。

私たちは、旅する人の心を大切に、もっと楽しい旅をお届けします。

旅する人の気持ちで……JTB

素敵な「旅」をご提案します。

日本交通公社
運輸大臣登録第一旅行業第44号



祈・立教開宗七五〇年 奉讃円成

<p>日蓮宗総本山 身延山久遠寺</p> <p>〒409-25 山梨県南巨摩郡身延町身延 電話 〇五五六六(二)〇一〇一 FAX 〇五五六六(二)〇九四</p> <p>法主 岩間 日勇 総務 藤井 教雄 役員 一同</p>	<p>日蓮宗大本山 池上本門寺</p> <p>〒146 東京都大田区池上二一一一 電話 〇三三七五(二)三三三一 FAX 〇三三七五(二)三三五〇</p> <p>眞首 田中 日淳</p>	<p>顕本法華宗総本山 妙満寺</p> <p>〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一 電話 〇七五(七九)七一一七 FAX 〇七五(七九)七二二六</p> <p>眞首 吉永 日晴 総務 中村 通義 執事 津村 乗信 執事 安東 靖弘 執事 山本 晃道 執事 小松 正学</p>	<p>法華宗(陣門流)総本山 本成寺</p> <p>〒955 新潟県三条市西本成寺一〇〇〇八 電話 〇二五六(三)〇〇〇〇八</p> <p>眞首 竹嶋 日香 執事 長真 保行 宣 執事 西山 英仁 執事 平井 良光 執事 鈴木 木顕 正 執事 栗田 孝之</p>
<p>法華宗(真門流)総本山 本隆寺</p> <p>〒602 京都市上京区智恵院通り五辻上丸紋屋町 電話 〇七五(四四)五七六二 FAX 〇七五(四四)五六六六</p> <p>眞首 真枝 日世 執事 長岩 崎峻 暉 執事 笹木 研秀</p>	<p>本門法華宗大本山 妙蓮寺</p> <p>〒602 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五 電話 〇七五(四五)三五二七</p> <p>眞首 吉村 日義 執事 長 飯田 信栄 役員 一同</p>	<p>日蓮本宗本山 要法寺</p> <p>〒602 京都市上京区小川通寺ノ内上ル本法寺前町六七 電話 〇七五(四五)九三九〇</p> <p>眞首 嘉儀 日有 大学 頭 丹治 日遠 執事 長 佐藤 智明 執事 原 柳下 眞昭 執事 事 高橋 義貞 承 執事 事 高橋 寛承</p>	<p>本門佛立宗本山 宥清寺</p> <p>〒602 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五一 電話 〇七五(四六)六二一〇(代) FAX 〇七五(四六)三二四六 五一</p> <p>住持 井上 日慶 二住持 小倉 徳治郎 信務局長 小倉 徳治郎</p>
<p>立教開宗之靈地 出家得度</p> <p>日蓮宗大本山 清澄寺</p> <p>〒299-55 千葉県安房郡天津小湊町清澄 電話 〇四七〇九(四)〇五二五</p> <p>別当 杉山 日慎</p>	<p>日蓮宗大本山 妙顕寺</p> <p>〒602 京都市上京区寺ノ内堀川東入</p> <p>眞首 山田 一光 執事 長 原 光司</p>	<p>日蓮大聖人御靈跡 日蓮宗大本山 本圀寺</p> <p>勅説にて京都に移遷の松葉ヶ谷草庵の靈跡</p> <p>〒607 京都市山科区御陵大岩町六 電話 〇七五(五九)三九一九一</p> <p>眞首 久村 諦道</p>	<p>日蓮宗大本山 北山本門寺</p> <p>〒418-01 静岡県富士宮市北山重須 電話 〇五四四(五八)一〇〇四</p> <p>眞首 片山 日幹 執事 長 田中 慈潮</p>
<p>日蓮宗大本山 法華経寺</p> <p>〒272 千葉県市川市中山二一十一 電話 〇四七三(三四)三三三三</p> <p>眞首 長瀬 日還 執事 長 富田 義董 執事 与 関 智清 康 執事 同 新井 智清 泰 執事 同 植田 智清 泰 執事 同 廣野 智清 泰 執事 同 土田 智清 泰 執事 同 土田 智清 泰</p>	<p>久遠成院日親上人御靈窟 日蓮宗本山 本法寺</p> <p>重文涅槃図長谷川等伯筆 名勝巴の庭本阿弥光悦作</p> <p>〒602 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル 電話 〇七五(四四)七九九七</p> <p>眞首 金山 日龍</p>	<p>やくよけ祖師 日蓮宗本山 堀之内妙法寺</p> <p>〒166 東京都杉並区堀之内三二四八一八 電話 〇三三三(三)三三三三 六二四一 ※平成八年度随身生募集中</p> <p>山主 駒野 教格</p>	<p>日蓮宗本山 頂妙寺</p> <p>〒606 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六 電話 〇七五(七七)一〇五六二</p> <p>眞首 土屋 学周 執事 与 山田 智清 修 執事 同 新井 智清 修 執事 同 加藤 智清 修 執事 同 藤井 智清 修 執事 同 藤井 智清 修 執事 同 川合 智清 修 執事 同 二之部 智清 修 執事 同 知孝 智清 修</p>

門連時報

身延祖廟参詣・理事会開催さる

平成八年六月十七日(月)、恒例の日蓮聖人門下連合会各派代表による身延祖廟参詣、身延理事会が行われた。

午後二時祖廟輪番奉仕所に参集した各派理事、常任理事の二十名は日蓮宗永井祥文宗務総長を先頭に行列を組み唱題の内にまず御草庵跡に法時言上往時の大聖人を偲び奉った。

祖廟に進んだ一行は永井祥文理事導師の下御自我偈、唱題を捧げ、異体同心の誓いを新たにされた。

下部ホテルに移動、午後三時より理事会を開催。出席者全員自己紹介の後、開議、渡辺清明常任理事座長となつてまず理事長推薦の件を諮り全員一致、日蓮宗理事、永井祥文師を理事長に推薦決定した。

永井理事長就任挨拶の後座長となつて議事進行。事業報告、平成七年度決算の件をそれぞれ承認、平成八年度予算の件は昭和六十二年度から据置きとなつていた各派分担金八万



門下連合会 祖廟参詣 身延理事会 (平成8年6月17日)

円を二万円値上げ、十万円とする事を決定。機関誌「門連だより」の定期刊行、また七〇事業の企画調査費二十万円など総額二、六四四、九六六円の予算が承認された。

地方門連活動に関しては大阪日蓮聖人門下懇話会の活動報告が三田村宗鳳師より、京都日蓮聖人門下連合会報告が杉若恵隆理事より報告された。

立教開宗七百五十年慶讃記念事業に関しては、京都理事会以来専門委員の日蓮聖人展に関する東京博物館側との交渉経緯を始め、企画内容に關し、大橋理事、中尾堯文師より発表があったが、予算を伴う企画でもあり、尚常任理事会に諮りながら慎重に企画を推進することが申しあわされた。

滞りなく会議を終え、午後六時よりなごやかに懇親会が行われ一泊、翌朝食後散会となった。

宮沢賢治生誕百年におもむ

今年、宮沢賢治生誕百年で、故郷の花巻市はじめ全国各地で多彩な催しがくりひろげられ話題をよんでいる。雑誌の特集も多く、出版も相次ぎ書店には賢治をめぐる多数の本が並べられている。マスコミも盛んにとり上げテレビの特番やドラマ等も度々放映され、松竹では映画制作もすすめられている。

賢治ブームが巻き起り、様々な論説が飛びかっている。長年、宮沢賢治精神の顕彰に尽力してきた人は

▼人事(事務局への連絡日も含む)

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平七・三二二	岩間日勇師	日蓮宗管長	顧問	就任	退任
平八・一	金山日龍師	京門連会長	顧問	就任	退任
	杉若恵隆師	京門連理事長	常任理事	退任	
	岩崎峻暉師	京門連副理事長	理事	退任	
	嘉儀日有師	京門連会長	理事	就任	
	佐藤智明師	京門連理事長	常任理事	就任	
	杉若恵隆師	京門連副理事長	理事	就任	
	藤崎広学師	京門連副理事長	理事	就任	
	田島敏義師	京門連副理事長	理事	就任	
	吉田勝秀師	法華宗真門流	常任理事		
	岩崎峻暉師	法華宗真門流	理事		
	上田浩岳師	法華宗真門流	常任理事		
	堀内邦雅師	法華宗真門流	理事		
	田中諦常師	法華宗真門流	理事		

「賢治先生は戸惑い悲しんでいる」と歎き、またある人は「ブームなんていう生易しいものじゃないね。もう立派に賢治産業がなりたつて、賢治景気にあやかっている方々がいっぱいいますから……」と言っている。賢治の作品は、二十数年の国語に翻訳出版されている。まさに世界的な児童作家・詩人となった。その創作活動は、純粋な法華経信仰が基盤になつていることも知られてきた。彼の三十七年の生涯は、「法華経に示さ

宮沢賢治生誕百年記念の集い
主催 記念の集い実行委員会
日時 8月18日午後1時半
会場 国柱会本部
(問合せ) 〇三三六五・七一一

「世界ぜんたいが幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という賢治の有名な言葉があるが、彼の願ったことは一切衆生のほんとうの幸福、皆成仏道であった。それは単なる文上の法華経ではない、日蓮聖人が色説実践された生きた法華経によるのみ実現されるのである。

田中智学師が日蓮教学を組織大系化した「本化妙宗式目」(五大門、十六段、八十科一千余条)がある。その講義録が「日蓮主義教学大観」として発刊されているが、賢治は五度も読んでいた。本化別頭の教義の深い領解が賢治にあつたことは間違いないと思ふ。

賢治の活動は、深い領解と信仰修行から発したものであり、本仏の大慈悲、本化上行日蓮聖人のみ教えのお取次ぎであつたのである。賢治を知ろうとしても、賢治が不借身命信仰した正しい宗教がわからなければ、所詮ははかない夢である。

日蓮聖人の願業成就をめざして邁進することが、賢治が本化によるこぶ道であろう。「求道すに道なり」という賢治の言葉を銘肝して「破邪顕正」勇猛精進していきたい。

れた広大な仏意を伝えたい」との一念であつた。それは遺詠の「病のゆえにもくちんのちなりみのりに棄てばうれしからまし」と、国訳法華経一千部を印刷して知人に贈るよう遺言したことでも明らかであろう。

法華文学創作の契機となつたエピソードもよく知られている。田中智学師が唱導する純正日蓮主義・在家仏教集団「国柱会」に入会した賢治が、父と信仰上で対立して家出上京し、国柱会館を訪れるが、その折応対した高知尾智耀師から勧められたからで、賢治は猛烈な勢いで童話創作にとりくんだのであつた。

「賢治先生は戸惑い悲しんでいる」と歎き、またある人は「ブームなんていう生易しいものじゃないね。もう立派に賢治産業がなりたつて、賢治景気にあやかっている方々がいっぱいいますから……」と言っている。賢治の作品は、二十数年の国語に翻訳出版されている。まさに世界的な児童作家・詩人となった。その創作活動は、純粋な法華経信仰が基盤になつていることも知られてきた。彼の三十七年の生涯は、「法華経に示さ

スーパーアニメーションビデオ

日蓮大聖人

全3巻

●第1巻(好評発売中!)

真理の研鑽——立正安国を叫ぶ

〈立教開宗750年慶讃/日蓮宗推奨作品〉

原作/石川教張著「日蓮聖人の生涯」

VHS 60分 頒価 15,000円

ご注文は

日蓮宗新聞社 〒146 東京都大田区池上7-23-3
TEL 03-3755-5271代 FAX 03-3753-7028

豪華本 全カラー

立教開宗750に向け完成 植中直斎入魂の聖人絵巻

日蓮宗総本山身延山久遠寺 蔵

絵—植中 直斎
書—藤井 教雄・小池 英淳

■体裁・内容
B4判変型/布装上製本/貼箱入り/保護函入り豪華本
オールカラー総214ページ
(図版・詞書・縁起・解説・訳文付)

定価20,000円

